

◆ 今週のコメント

- 新型コロナウイルス感染症の報告が3,735例あり、本年の累積報告数は77,985例となりました。本感染症の最新の動向及び詳細については下記URLをご参照ください。
○新型コロナウイルス感染症 最新の動向
<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000268303.html>
- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が1例(20歳代女性)あり、本年の累積報告数は2例となりました。発生状況の週別推移や血清型別患者数などの詳しい情報については、下記URLを御参照ください。
○腸管出血性大腸菌感染症発生状況(衛生環境研究所ホームページ)
<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000068305.html>
- レジオネラ症(肺炎型)の報告が1例(80歳代男性)あり、本年の累積報告数は9例となりました。
- アメーバ赤痢(腸管アメーバ症)の報告が1例(60歳代男性)あり、本年の累積報告数は3例となりました。
- カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症の報告が1例(50歳代男性)(第13週追加報告分)あり、本年の累積報告数は9例となりました。
- 劇症型溶血性レンサ球菌感染症の報告が1例(60歳代男性)あり、本年の累積報告数は2例となりました。
- 小児科定点把握感染症の推移は、前週までと大きな変化はなく、発生数は低く推移しています。

◆ 今週のトピックス: <RSウイルス感染症>

現在、小児科定点把握感染症に大きな変化はみられず報告数は低いレベルで推移しています。昨年2021年は第13週頃からRSウイルス感染症が増加し始め、夏にかけて大流行しました。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

(性別、年齢、症状、感染地域^{*}、感染経路^{**}の順に掲載。)

- 新型コロナウイルス感染症 3,735例【1月以降の累積報告数77,985例】
- 三類:腸管出血性大腸菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 2例】
- 四類:レジオネラ症 1例【1月以降の累積報告数 9例】
- 五類:アメーバ赤痢 1例【1月以降の累積報告数 3例】
- 五類:カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症1例【1月以降の累積報告数9例】
- 五類:劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 2例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点69, 小児科定点43, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ ^a	インフルエンザ	0	0
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	1.77	76
	② A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.23	10
	③ 突発性発しん	0.16	7
	④ 伝染性紅斑	0.05	2
	⑤ ヘルパンギーナ	0.02	1
眼科	流行性角結膜炎	0.10	1

【次ページ以降の主な内容】

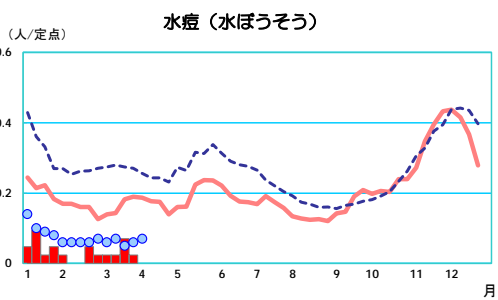
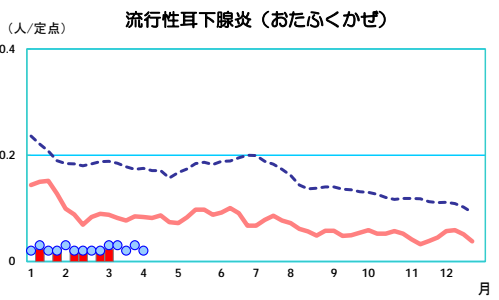
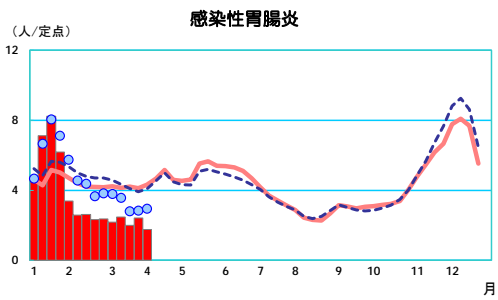
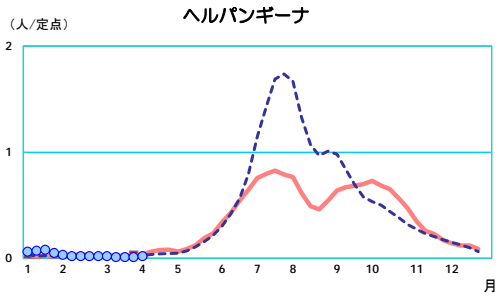
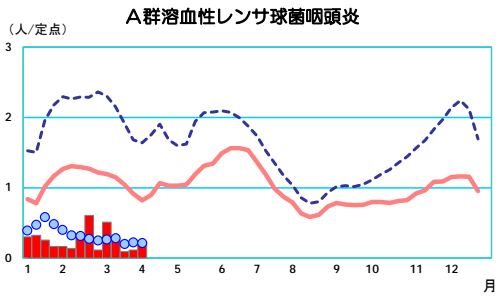
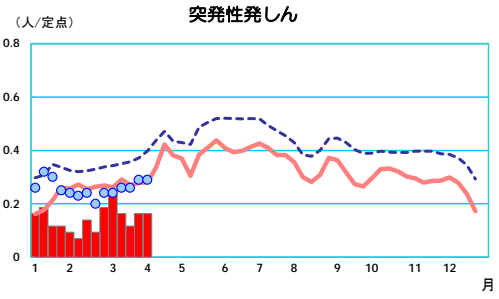
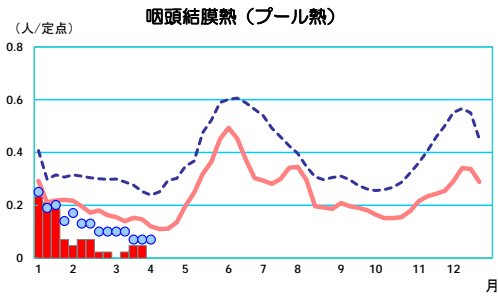
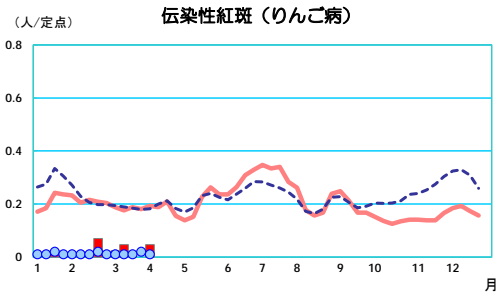
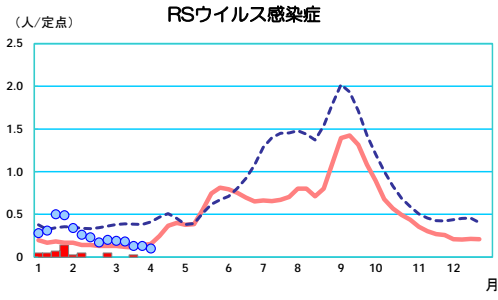
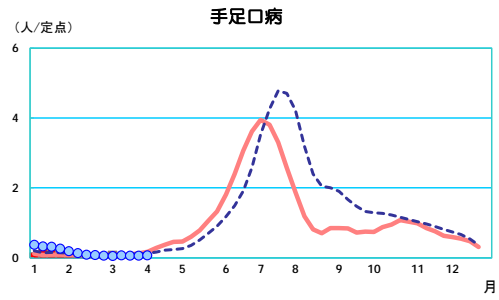
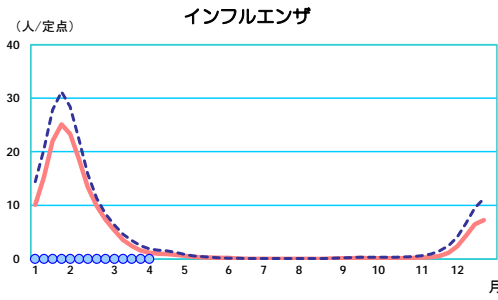
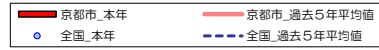
発生状況の概況グラフ / 発生状況地図 / 今週のトピックス: <RSウイルス感染症>
付表(疾病, 行政区別報告数 / 年齢階級, 疾病別報告数 / 週, 疾病別報告数)

(注) 京都市のデータは、2022年4月13日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。

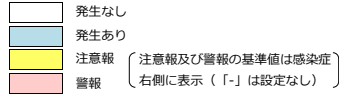
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。

^{*} 感染地域及び感染経路については推定を含みます。

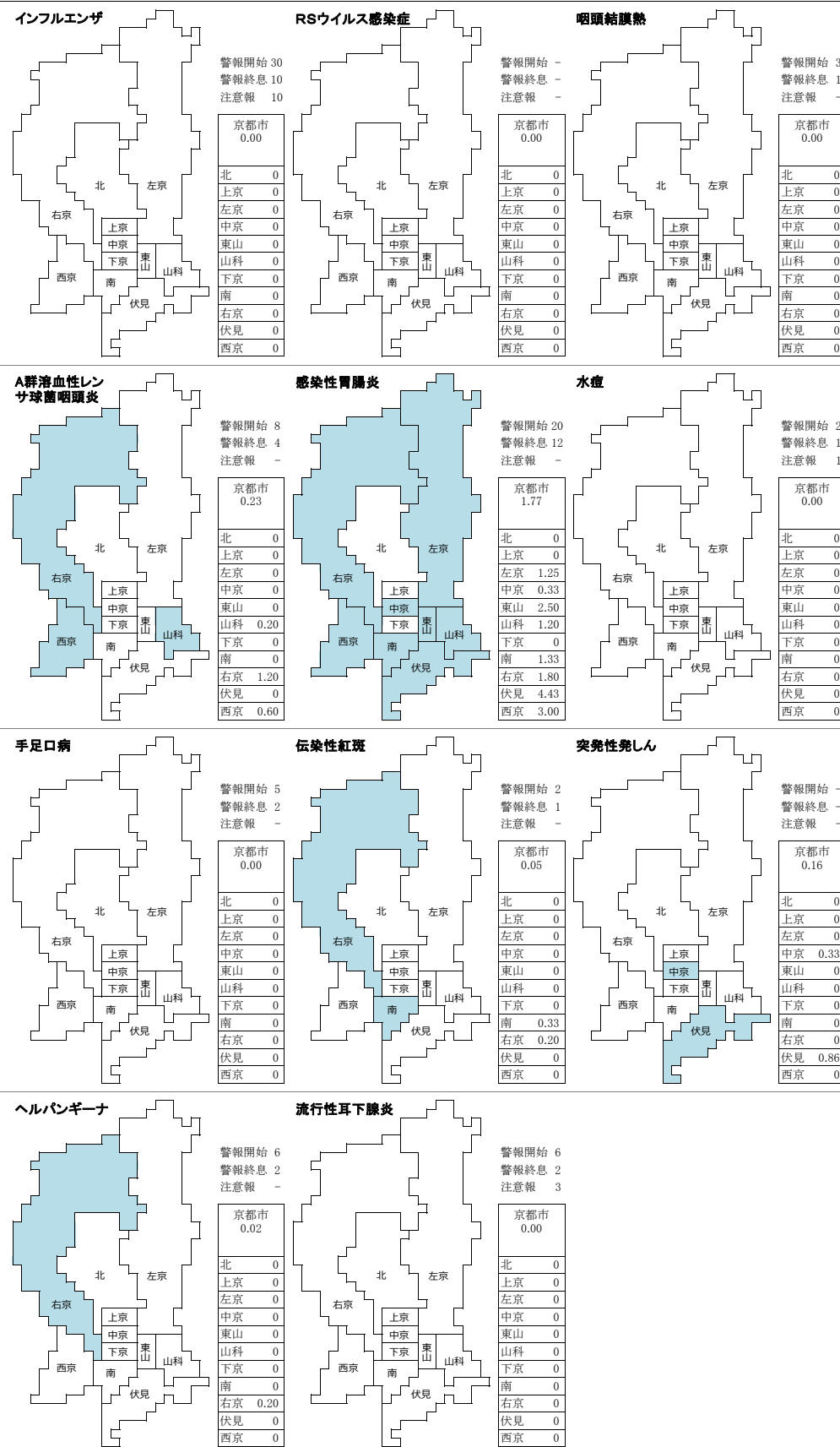
インフルエンザ[※]及び小児感染症の疾病別推移グラフ（2022年）



インフルエンザ及び小児感染症の発生状況地図【2022年第14週】



定点医療機関の所在地に基づいた集計結果となっています。
 したがって、定点当たり報告数は医療機関の立地条件や
 規模の大小の影響を受ける場合がありますので、ご注意ください。



第14週(4月4日～4月10日)トピックス: <RSウイルス感染症>

京都市では第14週、小児科定点把握感染症に大きな変化はみられず報告数は低いレベルで推移しています。しかしながら昨年2021年に大流行したRSウイルス感染症は、例年秋から冬が流行期でしたが、時期がずれて春先から増加し始め、夏に全国的な広がりをみせました。このように例年とは異なる発生動向を示す可能性もあり、流行予測も立てづらいため小児科定点把握感染症について続けて動向を注視していく必要があります。

RSウイルス感染症の発生動向を2021年と、2016～2020年の5年平均値(過去平均値)で比較しました。京都市では2021年第13週から定点当たり報告数の増加がみられ、第22週にピークを迎えました。過去平均値は第30週ごろから増加がみられ、ピークは38週であることと比較すると、顕著に流行時期がずれたことがわかります(図1)。全国の定点当たり報告数をみても2021年は第7週ごろから増加し始めてピークは第28週、過去平均値は第37週であり、本市と同様、流行時期にずれがあります(図2)。

2011～2021年全国の年間累積報告数をみると、2020年は報告数が極めて少なく、2021年は過去10年で最も多かったことがわかります(図3)。2020年は新型コロナウイルス感染症の流行により保育施設が休園になり、子ども同士の感染機会が減少したこと、それに加えて手洗い、消毒などの感染予防策が徹底されたことで流行がおきなかったと思われます。2020年に本来感染していたであろう子どもたちが感染機会がないままに過ごしたため、2021年はRSウイルス感染症の免疫をもたない小児が例年より多く、2020年に比べて人との接触機会が増えたことで、大流行をおこしたとの考えもあります。

年齢階級別の割合をみると、2011年から2020年まではほぼ同じ年齢構成で推移してきましたが、2021年は、1歳未満が18.9%と半減、1歳は目立った変化はみられないものの、2歳は1.5倍、3歳は2倍近くに増加し、4～6歳でも増えているという年齢構成となり、発生年齢が高年齢側にシフトしています(図4)。

2021年はRSウイルスが流行しましたが、新型コロナウイルス感染症の流行以降、他の小児科定点把握感染症においても前述のとおり人との接触が減ったことで免疫をもたない小児が増え、いつ大流行を起こすか未知数です。小児科定点把握感染症のほとんどは飛沫感染や接触感染であるため、引き続き日々の手洗い消毒、子どもたちの共用部分やおもちゃの消毒等を徹底し、感染予防をしていく必要があります。

図1 京都市の定点当たり報告数の推移

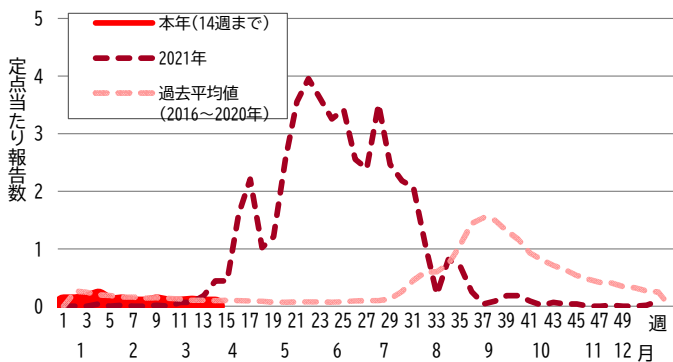


図2 全国の定点当たり報告数の推移

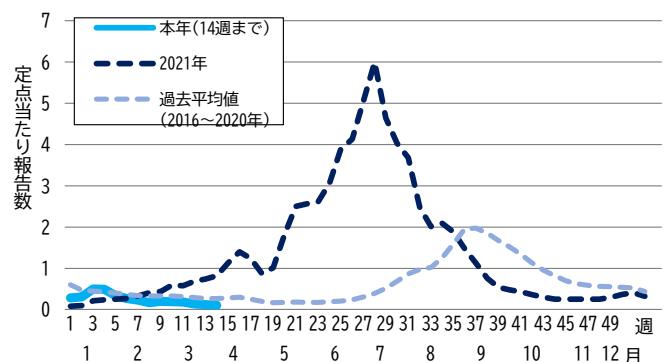


図3 全国の年間累積報告数(2011～2021年)

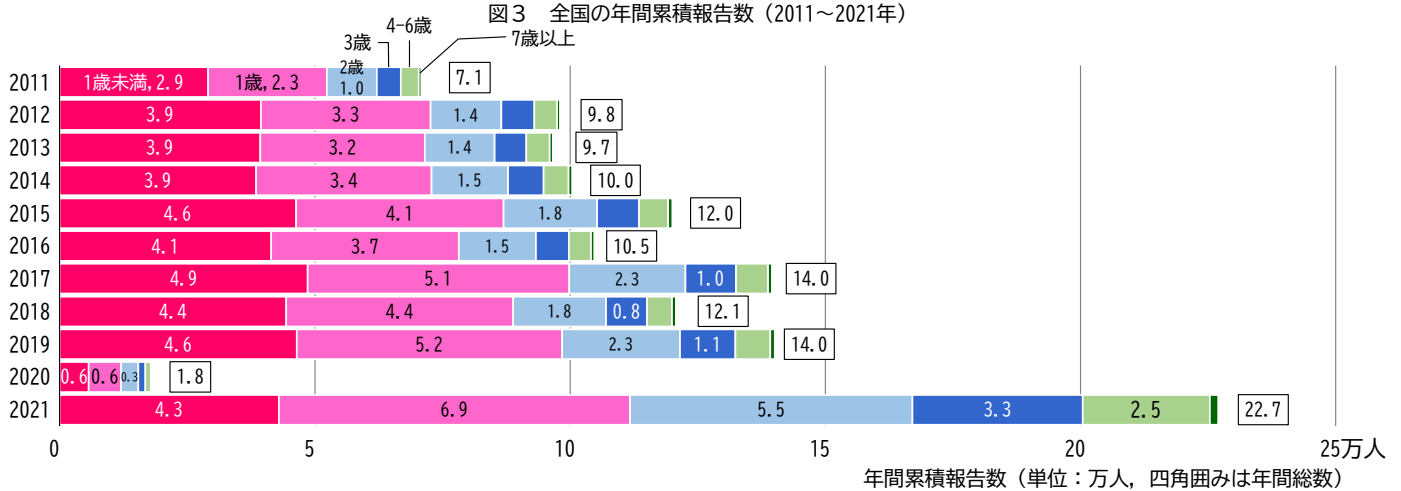
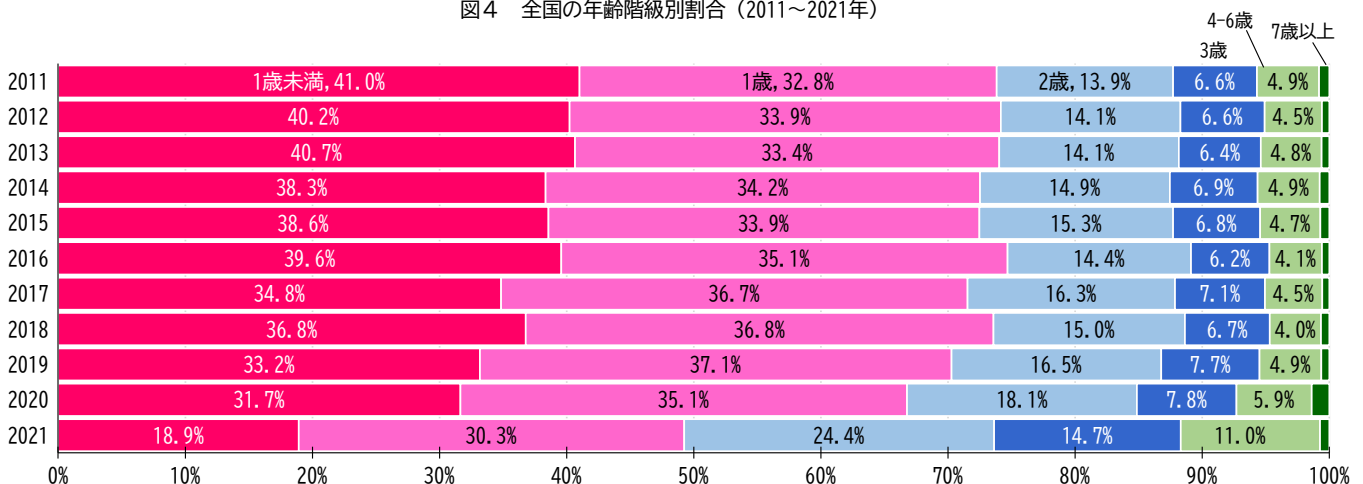


図4 全国の年齢階級別割合(2011～2021年)



T3201

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2022年第14週

疾病,行政区別報告数

2022年4月4日～2022年4月10日

データ入手日:2022年4月13日

	インフルエンザ(※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	頭炎 A群溶血性レンサ球菌咽	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎(※2)	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎(※3)	感染性胃腸炎(※4)
男女合計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
北	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
左京	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
中京	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山科	-	-	-	1	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
下京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
南	-	-	-	-	4	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
右京	-	-	-	6	9	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
伏見	-	-	-	-	31	-	-	-	6	-	-	-	1	-	-	-	-	-
西京	-	-	-	3	15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都市計	-	-	-	10	76	-	-	2	7	1	-	-	1	-	-	-	-	-

疾病,行政区別定点当たり報告数

	インフルエンザ(※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	頭炎 A群溶血性レンサ球菌咽	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎(※2)	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎(※3)	感染性胃腸炎(※4)
男女合計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
北	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
左京	-	-	-	-	1.25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
中京	-	-	-	-	0.33	-	-	-	0.33	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	-	-	-	-	2.50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山科	-	-	-	0.20	1.20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
下京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
南	-	-	-	-	1.33	-	-	0.33	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
右京	-	-	-	1.20	1.80	-	-	0.20	-	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-
伏見	-	-	-	-	4.43	-	-	-	0.86	-	-	-	0.50	-	-	-	-	-
西京	-	-	-	0.60	3.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都市計	-	-	-	0.23	1.77	-	-	0.05	0.16	0.02	-	-	0.10	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2022年第14週

年齢階級, 疾病別報告数

2022年4月4日～2022年4月10日

データ入手日:2022年4月13日

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上
男女合計	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上						
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上				
インフルエンザ(※1)	年齢1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	年齢3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		10	-	-	-	2	-	-	4	-	-	1	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎		76	3	2	14	4	3	13	8	1	1	5	3	10	-	9	-	-	-	-	-	-
水痘		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑		2	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん		7	-	1	4	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ		1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎		1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	
細菌性髄膜炎(※2)	年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎(※3)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(※4)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

年齢階級, 疾病別定点当り報告数

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上
男女合計	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上						
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上				
インフルエンザ(※1)	年齢1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	年齢3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.23	-	-	-	0.05	-	-	0.09	-	-	0.02	-	0.05	-	0.02	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎		1.77	0.07	0.05	0.33	0.09	0.07	0.30	0.19	0.02	0.02	0.12	0.07	0.23	-	0.21	-	-	-	-	-	-
水痘		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑		0.05	-	-	-	0.02	-	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん		0.16	-	0.02	0.09	-	0.02	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ		0.02	-	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎		0.10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.10	-	-	-	
細菌性髄膜炎(※2)	年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎(※3)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(※4)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

T3203

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2022年第14週

週, 疾病別報告数

データ入手日:2022年4月13日

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ ※1)	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	2	-	-	1	-	-
咽頭結膜熱	1	-	1	2	2	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	5	22	11	4	5	10
感染性胃腸炎	102	94	106	86	104	76
水痘	1	1	1	3	1	-
手足口病	1	8	1	-	1	-
伝染性紅斑	-	1	2	-	-	2
突発性発しん	8	10	7	5	7	7
ヘルパンギーナ	-	1	-	1	3	1
流行性耳下腺炎	1	1	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	-	1	-	1	4	1
細菌性髄膜炎 ※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 ※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 ※4)	-	-	-	-	-	-
合計	121	139	129	103	127	97

週, 疾病別定点当たり報告数

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ ※1)	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	0.05	-	-	0.02	-	-
咽頭結膜熱	0.02	-	0.02	0.05	0.05	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.12	0.51	0.26	0.09	0.12	0.23
感染性胃腸炎	2.37	2.19	2.47	2.00	2.42	1.77
水痘	0.02	0.02	0.02	0.07	0.02	-
手足口病	0.02	0.19	0.02	-	0.02	-
伝染性紅斑	-	0.02	0.05	-	-	0.05
突発性発しん	0.19	0.23	0.16	0.12	0.16	0.16
ヘルパンギーナ	-	0.02	-	0.02	0.07	0.02
流行性耳下腺炎	0.02	0.02	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	-	0.10	-	0.10	0.40	0.10
細菌性髄膜炎 ※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 ※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 ※4)	-	-	-	-	-	-
合計	2.81	3.31	3.00	2.47	3.26	2.33

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。